

畑作・野菜・花き生産情報 第2号（要約版）

令和2年5月19日
青森県「攻めの農林水産業」推進本部

- ◎小麦の出穂期は平年より早まっています。赤かび病の適期防除に努めましょう！
- ◎大豆の排水対策・土壌酸度矯正・砕土を徹底しましょう！
- ◎野菜の生育はおおむね順調です。適正な栽培管理を徹底しましょう！
- ◎施設内の温度変化が激しい時期です。適正な栽培管理により高品質な花きの生産に努めましょう！

○小麦

- 1 出穂期は、平年より5～8日早い。
- 2 うどんこ病の防除は、病斑が止葉直下葉に発生したら、直ちに薬剤散布を行う。
- 3 赤かび病の防除は、開花始めから開花期に1回目、その7日後に2回目の薬剤散布を行う。
- 4 湿害防止のため、ほ場の排水に努める。
- 5 今後の登熟状況に注意し、適期収穫に備える。

○大豆

- 1 湿害による出芽不良を防ぐため、排水対策はしっかり行う。
- 2 土壌酸度を適正にするとともに有機物や土づくり肥料により地力向上を図る。
- 3 出芽・苗立ちの確保や除草剤の効果を高めるために、耕起・砕土は丁寧に行う。
- 4 は種は5月中旬から下旬を目安に行い、土壌処理剤の散布は、は種後速やかに行う。

○にんにく

- 1 りん片分化期が平年並から10日早く、生育は平年並から早まっており順調である。今後、生育は平年より早まると見込まれる。
- 2 春腐病は、降雨前の予防防除を徹底する。さび病は、効果持続期間が長い薬剤を散布して、病勢の進展を抑える。
- 3 抽だいが始まったら、とうを摘み取り、球の肥大を促す。

○ながいも

- 1 普通栽培の植付適期は5月中旬～6月上旬なので、計画的に植え付ける。ただし、切いもの場合は、地温が低いと種いもの腐敗を招きやすいため、5月下旬～6月上旬に植え付ける。
- 2 頂芽付小型1年子の早植栽培（4月下旬～5月上旬植付け）の基肥は、萌芽が50%程度の時期に施用する。

○春夏にんじん

- 1 生育は、葉数が平年より少ないものの、草丈、地下部ともに平年を上回っており、

順調である。

- 2 トンネル栽培では、本葉5～6枚時までには、1本立てとする。トンネル開閉による温度管理を徹底し、6月上旬（平均気温15℃以上）をめどに除覆する。追肥は、本葉5～6枚時に行う。
- 3 ベたがけ栽培では、本葉3～4枚時までには1本立てとする。除覆は本葉5～6枚時を目安とするが、この時期に低温が予想される場合は、本葉7枚頃まで除覆せず保温に努める。追肥は、本葉3～4枚時と5～6枚時に行う。

○春だいこん

- 1 4月の気温が低く推移したため、地上部、地下部ともに平年を大幅に下回り、生育は遅れている。
- 2 根部の肥大状況を確認しながら適期に収穫する。
- 3 キスジノミハムシやナモグリバエの発生が見られるほ場では、トンネル除去後、早めに防除する。

○ばれいしょ

- 1 萌芽期は平年より5日遅く、草丈、茎数ともに平年を下回っている。
- 2 1回目の中耕・培土は、草丈10cm頃を目安に行い、2回目は、着蕾期に窒素成分で10a当たり4～5kg追肥してから行う。

○メロン

- 1 トンネル栽培では、定植作業は平年並みに進み、定植後の活着は良好で、生育は順調である。
- 2 トンネル内温度は15～30℃を目標に換気し、雌花の確保と生育促進に努める。
- 3 蜂の動きが活発でないときは人工交配を行う。また、天候不順の場合はホルモン処理を併用する。

○夏秋ギク

- 1 4月定植の生育はおおむね順調で、病害虫の発生は少ない。
- 2 切り花品質向上のため、わき芽は小さいうちにかき取る。
- 3 病害虫などの発生防止のため、過湿や多肥を避け、早期発見・早期防除に努める。

○秋ギク

- 1 太さが揃い充実した苗を出荷時期に応じて定植する。
- 2 定植後は、日中の気温が25℃以上にならないように管理する。

○トルコギキョウ

- 1 春定植栽培の生育はおおむね順調であり、病害虫の発生は少ない。
- 2 老化苗は生育が劣るので、展開葉4枚までの苗を定植する。
- 3 生育の停滞やロゼットを防ぐため気温が25℃以上にならないように管理する。
- 4 立枯性病害が発生した際は、発病株の抜き取り処分を徹底する。

※アップルネット (<http://www.applenet.jp/>) に本文を掲載しています。

◎メロンやいちごなどの園芸作物で、花粉交配用ミツバチが確保できない場合は、各地域県民局地域農林水産部まで御相談ください。

◎決め手は土づくり！ 日本一健康な土づくり運動展開中！
ほ場の準備に当たっては、土壌診断に基づいた土づくりに努めましょう。

◎令和2年度青森県農薬危害防止運動展開中（5月1日～8月31日）

農薬を使用する前には必ず最新の農薬登録内容を確認し、使用基準を守って使用しましょう。また、散布の際は周囲に飛散させないよう細心の注意を払いましょう。

クロルピクリン剤など土壌くん蒸剤を使用する際は、住宅、畜舎等に近接する農地での使用は避け、薬剤の施用後は速やかにシート（厚さ0.03mm以上または難透過性の資材）で被覆しましょう。

市販されている除草剤のうち、「非農耕地専用除草剤」は、農作物等の栽培管理に使用できないので、注意しましょう。

農薬情報(http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n_info/)

農薬登録情報提供システム

【詳細検索】(<http://www.acis.famic.go.jp/search/vt11p301.jsp>)

【作物名検索】(<http://www.acis.famic.go.jp/search/vt11p101.jsp>)

◎食中毒を防ぐため、生産段階から「野菜の衛生管理」に努めましょう。

1 栽培に使用する水の衛生管理や水質の確保に努めましょう。

2 家畜ふん堆肥は、水分調整や定期的な切り返しを行い、十分発酵させましょう。

家畜ふん中の菌の死滅には、55℃以上の温度が3日以上続いている状態が必要です。

堆肥の製造工程では、この温度条件を確認しましょう。

3 家畜ふん堆肥を野菜栽培に使用する際は、製造工程や熟成度を確認しましょう。確認できない場合には、堆肥施用から収穫までの期間を、収穫部位が土壌から離れた野菜は2か月以上、土壌に近い野菜は4か月以上空けましょう。

4 農機具や収穫容器等は清潔な状態を保ち、汚水の流入や野生動物の侵入防止等、栽培環境の整備にも努めましょう。

※ 野菜の衛生管理指針、家畜ふん堆肥の生産・利用の注意点はこちら

→ (<http://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/nourin/sanzen/>

[kachikuhunntaihiseizoukanritenminnaoshi.html](http://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/nourin/sanzen/kachikuhunntaihiseizoukanritenminnaoshi.html))

◎農業保険に加入し、農業経営に万全の備えを！！

農業保険には、農作物共済、園芸施設共済、農業経営収入保険などがあります。自分の経営にあった保険を選択、加入して、自然災害をはじめとしたリスクに備えましょう。

1 農作物共済、畑作物共済

「農作物共済」は水稻・麦を対象として、「畑作物共済」は大豆・ホップを対象と

して、災害による収穫量の減少に対する損害を補償します。

2 園芸施設共済

「園芸施設共済」はガラス室・プラスチックハウスと附帯施設、施設内農作物を対象として、災害による施設被害と農作物の損害を補償します。

なお、「園芸施設共済」は生産者部会等の集団で加入すると掛金が割引になる等、各種割引メニューがあります。

3 農業経営収入保険

「農業経営収入保険」は、災害による減収に加え、市場価格の低下など農業者の経営努力では回避できない理由により販売収入が減少した場合も補償の対象になる総合的なセーフティネットです。(青色申告の実施が要件)

※ 詳しくは、お近くの農業共済組合までお問い合わせください。

◎春の農作業安全運動を展開中です（4月1日～5月31日）

例年、4～5月は、農作業事故が多くなる時期となっています。

体調やまわりの状況を確認し、安全な農作業に努めましょう。

- 1 慣れた作業でも油断せず、注意して行いましょう。
 - 2 必ず、作業の合間に十分な休憩を取りましょう。
 - 3 自分を過信しすぎず、無理のない作業を行いましょう。
 - 4 一人での作業は避け、やむを得ず一人で作業を行う場合は、家族に作業場所を伝え、携帯電話を持ちましょう。
 - 5 家族や周りの人など、地域全体で注意を呼びかけましょう。
-



報道機関用提供資料	
担当課 担当者	(畑作) 農産園芸課稲作・畑作振興グループ GM 腰巡好之 (野菜・花き) 農産園芸課野菜・花き振興グループ GM 高橋宗壽
電話番号	(畑作) 直通 017-734-9480、内線 5073 (野菜・花き) 直通 017-734-9485、内線 5076
報道監	農林水産部 次長(農商工連携推進監) 赤平 次郎 (内線:4967)